

為すべきことを為してから、意見を言ったり、夢語らなアカン。

理事長 池田 太八



時代に、社会に必要とされる組織であるために、
変わるためのリスクはとるべき。

専務理事：一年間お疲れさまでした。

まず最初に今年の所信で「凛々しいまち大阪の実現」という運動を掲げられていましたが、これは、どういう時に言いますか、どういう場面で、この運動を展開していきたいと思われたのですか？

理事長：うーん。どういう場面って聞かれると難しいんだけど、どうなればより良い社会が創れるか？自分たちに何ができるかを考えた時に、この組織というか僕たちは何も考えられてない、してないんじゃないか？時代に合っていないんじゃないか？って思ったんだよね。そこで、この所信にたどり着きました。

専務理事：なるほど。実際、一年間、この運動に向かって様々な事業を展開していましたが、今年は結構、事業の中にも、理事長としてのカラーが特色として出ましたよね。

理事長：やっぱり、大阪青年会議所の行う事業にもリスクを取っていかないとダメだと思うね。単に、続いている事業を、繰り返し繰り返し、同じ形で続けているだけではダメでしょう。時代も変わるし、環境も変わる、なのに、そのまま同じことを続けようとするのは。時代は進んでいるのに、それを敏感に、とまでは言わなくても、自分のやろうとしていることの感覚がずれている、とかは気付かないといけないと思うし、気付いていても、そのまま過去の踏襲をしようとするのは、話が元に戻るけど、事業をやるのにリスクを取ろうとしていないんだと思うなあ。

専務理事：継続事業は、去年と同じようにやれば、乱暴な言い方ですけど、楽ですからね。少しでも、青年会議所運動を

前進させていこうとするならば、言いかえれば、時代に合わせた青年会議所運動をしていくのであれば、確かに、時代の変化に合わせて運動は変わるし、事業も手法も変わるんでしょうね。その意味では、去年とまったく同じやり方、同じことをしている方がおかしい、となりますね。

理事長：そやねん。そやから、常に感覚を研ぎ澄まして、新しいことにチャレンジしていかなくてはならない。新しいことをすれば、当然、リスクは出てくるんだろうけれど、キャビネット、特に、P専は、潰したらアカン。

専務理事：そうですね。それは思います。でも、今年はいろんなことに挑戦しましたね。池田丸は全開で走っているわけですから、当然、波風も立つわけですが。

理事長：走っている本人は気付かない(笑)。波風受けるのがイヤなら、一緒に走ったらええねん。JCにすらついて来なければ、時代というか社会から取り残されるよ。

専務理事：ははは。理事長らしい。

理事長：今年は、一般法人か公益法人の選択をしなくてはならない年やったしね。日本の他のLOMは公益社団法人を目指しているところが多いみたいなんやけど、そもそもの趣旨や目的のためなら、株式会社とかそんなんでもかまへんし、別に社団法人にこだわらんでええと思っててん。

専務理事：株式会社って。社団法人は解散したら、残余財産は類似の法人に移すか、国庫に帰属する、というのが決まりなんで、実際には株式会社にはできないんですけど。

理事長：そうか。そやけど、現実問題、この組織の目的は公益的な社会開発なんやから、公益比率が現実的にどのくら

いなのかは把握しなきゃならないし、比率を高めなきゃならない。だから、メンバーのためだけの月例会を止めてOJCフォーラムに変えたり、大型で行政と共催での市民参加型事業としてOSAKAキャッスル☆ハッスル!!を企画したり、色々、公益事業費を高める工夫をしたよね。でも、やってみただけど、公益事業比50%を超えられなかったし、将来的に維持していくのは、難しいということが分かったよね。

専務理事：実際、やってみた感想ですからね。説得力ありますね。

理事長：説得力っていうか、今の僕たちの活動は、公益は過半数を超えていないという現実を知ったし、社会開発や地域貢献を目的にした団体と言って良いのか不安になったよ。

専務理事：そうは言えども、社会貢献的な要素がないとJC運動も成立しませんから、一般社団法人を選んだ後も、それはそれとしてしっかりやっていかないとイケませんね。

理事長：確かに。もっと言えば、社会貢献云々の前に、今年のテーマの「為すべきことを為す」やね。やることやってから、意見を言ったり、夢語らなアカン。

専務理事：そうですね。僕たちは評論家じゃありませんからね。最近では、やることやらないで、評論する人が多いですからねえ。

理事長：そやね。そんな奴の評論は誰も聞かんっていうことが分かってない。政治家も企業人も。そんでもって、達成感と達成率、僕らの組織でいう運動の拡がりや勘違いしてる奴も多すぎる。

専務理事：事業を終えての達成感と、事業目的の達成率は違

いますからね。達成感とは個人が頑張れば得ることができますが、目的の達成率というか影響度というかは、ニーズと現実性と事業が一致しなきゃならないので、余程の協議や準備が必要になりますね。

理事長：そういうこと。ぼーっと昔のマニュアルに従って、担当者付け替えても目的の達成率は下がる一方やからね。だから、新しいというか時代に合った手法で取り組まな。でも、メンバーシップに主軸を置いていると、メンバー同士で一緒に取り組むというところが重点的になるから、世間がどうであろうと、目的達成率がそこそこであろうと、「やった感」が大きけりゃええって事になってくる。

専務理事：そんな事してたら、いつまで経っても私たちの活動は、絵に描いた餅になってしまって、社会から不要論を突き付けられてしまいます。

理事長：まあ、好きでやっている団体なので、不要論とはいかないまでも、魅力や影響力のない団体になってしまうよね。

専務理事：そうならないためにも、会の目的、事業の目的をしっかりと考えて活動しなければなりません。

理事長：そうやね。僕は今年で卒業するけど、特別会員になっても、会の一員として、まちのために、そして現役のために頑張ります。出過ぎず、引き過ぎず。

専務理事：宜しくお願いします。あんまり出過ぎないで下さいね(笑)。

理事長：現役も引き過ぎるなよ(笑)。

専務理事：一年間、ありがとうございました。

(2011年12月13日・リーガロイヤルホテル大阪にて)

時代の変化に合わせて運動は変わる
去年と同じ事をしていてる方がおかしい。

専務理事 中川 翼